

校長あいさつ

後期がスタートしました

10月4日に前期終業式・後期始業式を実施し、湖南小でも後期がスタートしました。

9月・10月は各学年で校外学習を実施し、実際の場所に行き公共のマナーや働くことの大切さ、将来の夢などを見ることができた児童が多いと感じています。9月24日・25日に実施をした6年生の修学旅行は経済や文化の中心である東京に行き、たくさんのことを学びました。今回は地下鉄に乗っての移動を体験しましたが、初めてのSUICAでの改札、初めての満員電車でドキドキの体験でしたが、友達同士で声を掛け合ったり、乗車できたかを確認したりと、お互いを大切にする行動が素晴らしいと感じました。仲間を大切にできる素晴らしい6年生だと嬉しくなりました。

各学年の校外学習で育んだ様々な学びを、後期の学習で広げていきたいと思います。



修学旅行の様子（左から国会議事堂・ディズニーランド・東京タワー・キッザニア）

子ども達一人一人の素晴らしいところを、さらに伸ばしたい

★PBS（ポジティブな行動支援）を大切に「子ども理解」と「授業改善」を進めます

湖南小ではPBSを大切に、子ども達一人一人が安心して自分の力やよさを伸ばすことができる学校運営に力を入れて取り組んでいます。毎日の学校生活や行事の中で、子ども達が自分のよさや力を発揮させながら学ぶ姿が多く見られるようになってきたと感じます。そのような中、10月8日（水）には「諏訪地区学校と授業を考える会」で、湖南小を会場として諏訪地区の先生方170名が集い、「PBSについて学ぶ会」を行いました。2年1部の算数の授業を公開し、「子どもがよさを発揮できる授業づくり」について研究協議をしました。また次期学習指導要領の策定に関わっているUNIVA代表の野口晃葉氏から「誰もが生活しやすい社会に向け、日常の中のふつうをアップデートする」という講演も聞きましたが、子ども達が安心して自分のよさを発揮できる授業改善や、教師とのよりよい関係性の構築に向け努力をして参ります。

春に行った「全国学力テスト」の結果を見ると、湖南小の児童は「**学んだいろいろなことを生かしながら自分の考えをまとめていくこと**」「**自分から相談や話し合い活動をする**こと」が苦手であるという分析結果が出ました。様々な人の「見方・考え方」に触れ、自分なりの方法で答えを導き出す学びが、これからの予測不可能で多様な社会をより豊かに生きていくためには必要です。

次期学習指導要領が2030年から実施となりますが、子ども達の素晴らしいところをさらに伸ばす学校運営ができるように、教育課程も少しずつ見直していきます。各教科の授業時数、授業時間、日課など子ども達が安心して自分のよさを伸ばすことができる学校となるよう改善していきます。

その一つとして「心静かルーム」の運用を始めました。

心静かルームってこんなところ

以前、PC教室として運用していた場所の一部を心静かルームとして運用しています。心静かルームは、様々な事情から「今」は、自分のペースで学習や活動がしたいという児童が、心を落ち着かせて学習や活動に取り組むことができるようにするために設置しました。利用時間を相談して、いつでも利用ができますから、利用したい児童のみなさんは担任の先生や教頭先生に気軽に声を掛けてください。

安心して、学習をしたり過したりできるスペースがあります

